

学生の未来のための 5つのサポート

教育学部後援会では、保護者の皆さまのご支援のもと、学生の教育・研究活動や課外活動、進路指導に関するさまざまな援助を行っています。

保護者の皆さまへ

教育学部後援会から保護者の皆さまに、活動内容を知っていただくためのチラシをお届けします。後援会では、教育学部生の教育研究活動や就職活動が一層充実したものとなるよう後援会費で5つのサポートを行っています。学生の皆さんが「存分に学問に打ち込めた」「進路を決めることができた」と大学生活に満足されるよう今後とも取り組んでまいります。保護者の皆さまには、後援会活動にご理解を賜りぜひともご加入くださいますようお願いいたします。

教育学部後援会 会長 瓜生 八百実



1

キャリア教育

段階に応じたきめ細やかな キャリアサポートを実施



1年生の時から将来を見据えた有意義な大学生活を送れるよう、早い段階から指導を開始。卒業後のビジョンを描くキャリアガイダンスに始まり就職活動本番のサポートに至るまで、4年間を通して幅広い支援を行います。

コース単位での OB による就職・大学院進学指導講話

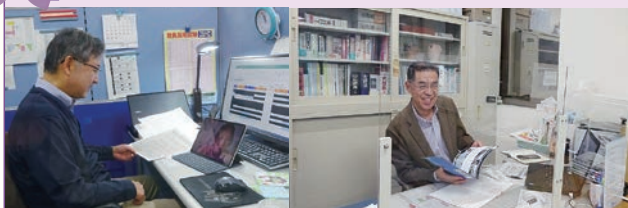
採用試験合格者による体験発表会

都府県別教職説明会（尚志会・東雲同窓会共催）

2

就職活動支援

専任の教員が常駐し就職活動 について気軽に相談できる



学部独自に配置した教職担当教員と一般企業・公務員担当教員の2名が就職情報資料室に常駐し、就職活動をサポートします。

【相談・指導】

個別相談

自己アピール文の添削指導

面接指導

担当教員からのメッセージ

就職に関する情報が必要な時は資料室へ！

卒業後の進路に関わる就職活動には、しっかりした情報収集と十分な事前準備が必要です。全学をサポートするキャリアセンターに加え、教育学部には、他学部にはない「就職情報資料室」があります。私の担当は、主に一般企業と公務員志望の学生で、教員志望の学生を担当している教職担当教員と2人で就職指導にあたっています。学生の皆さんが納得できる結果が得られるよう、一緒に考えサポートしていきます。

就職情報資料室 就職担当教員 藤原 雅和

【情報提供】

就職関連図書・月刊誌

各種案内

・学内就職ガイダンス
・試験対策講座
・学外イベント／
情報サイト



3

教員採用試験対策

難関の教員採用試験も 経験に基づいてしっかり指導



卒業生の声 的確なアドバイスがもらえる面接指導

教育学部では、受験する県ごとにグループに分かれて教員採用試験の面接、模擬授業、集団討論の対策をします。教員採用試験や就職活動に精通している就職情報資料室の先生に助言をいただきながら、しっかり面接の練習をすることができたので、自信を持って試験を迎えることができました。

面接指導

各都道府県の情報収集

教員採用試験対策の実技補習

4

課外活動

教育学部祭や部活動・サークル活動の援助



★ 部活動・サークル活動への支援

教育学部では、多くの学生が部活動及びサークルに加入しています。そうした学生たちのキャンパスライフを豊かなものにするため

に、後援会では課外活動への支援も積極的に行っており、海外遠征に赴く際の費用などを援助しています。

★ 教育学部祭 E-storm

毎年秋に行われる教育学部祭、通称「E-storm」は教育学部生たちが地域の方々や子どもたちと交流することを目的としています。地域や社会に開かれた教育学部を実現させるため、E-storm 開催に対する経済的援助を行っています。

5

その他

その他のサポート



★ 留学生国際交流パーティー

広島大学では、海外から多くの留学生を受け入れています。そうした留学生と日本人学生の親睦を深めるため、留学生国際交流パーティーを開催しています。学生たちは日本にいながら異文化を体験することができ、グローバルな視点を持つきっかけになります。

ペスタロッチャー教育賞への援助

★ ペスタロッチャー教育賞への援助

広島大学教育学部主催の「ペスタロッチャー教育賞」は、優れた教育実践を行っている個人や団体に対して贈られる賞です。後援会では、経費の一部援助を行っています。

激動する教員採用試験への対応

— 今こそ、就職情報資料室へ！ —

就職担当客員教授 杉原 敏彦

一昨年来、教員採用試験（以下、「教採」）のスキームに大きな変化が生じている。

教採はこれまで、4～5月に出願、7月に1次試験（筆記試験）、8月に2次試験（面接）、9～10月に合格発表というサイクルだった。それが今、大卒が激動する時期を迎えている。

ここで「激動」の中身をまとめておこう。(1) 早期化、(2) 複線化、(3) 共通問題化である。

- (1) 早期化 文部科学省（以下、「文科省」）は、一昨年、2024年に行われる教採1次試験の実施期日を6月16日の標準日とするよう各自治体に要請した。さらに昨年来、2025年試験の標準日は5月11日にする旨提言している。これらの要請を受けて、自治体の中には1次試験の日程を7月から6月に早期化するところがあったが、さすがに5月実施に踏み切ることを公表した自治体はまだ少ない（山口、島根など数県）。その結果、1次試験の実施期日が5～7月に分散化するという状況が出来た。
- (2) 複線化 併せて文科省は各自治体に対して、教採を複数回実施すること、とりわけ大学3年次生で受験できる仕組みをつくることを提唱している。この提言を受けて、3年次生で教採1次試験を受験できるようにする自治体数が2025年度には40前後にのぼった。3年次での受験制度を、多くの自治体では「チャレンジ受験」と呼んでいる。3年次試験の合格者には、4年次に受験する教採1次試験が免除されるのが一般的なので、そのようなアドバンテージ獲得を目指してチャレンジしてみてもどうか。
- (3) 共通問題化 教採の試験問題は各自治体で作成され、自治体ごとに問題が異なるのが通例である。上記(1)、(2)の実施と関連して、今後、文科省が準備・提供する試験問題を全国の自治体が利用することも検討されている。想定される問題の種類は、一般教養、教職教養及び専門教養等従来一次試験で実施する学科試験であり、大学入試における大学入学共通テストの役割と同様に、近い将来教員になるための「共通一次試験」となる可能性もある。

さて、上記のような大きな変化が進行する中で、教採を受験しようとする学生にとって重要なのは、教採1次試験の実施時期が早まることと3年次で受験できるという変化である。このような変化が急激に起きていることに不安を感じる学生もいるかも知れない。その人たちも含め、特に1、2年次生に言っておきたいのは、早期化じたいは本学学生にとって過度に心配する必要はない、ということである。普段の学修や学生生活を堅実に積み重ねることがまず一番の教採受験準備なのである。

次に、教採受験をすでに決意し、第一志望の自治体がチャレンジ試験を実施する場合、積極的に受験を試みてみよう。準備ができていない、成績に自信がないなど「しない理由」はいくらでも思いつくだろうが、準備不足は誰も同じ。練習のつもりで受けてみて損はない。実際、合格率が9割を超える自治体が続出している。

いずれにしても、教採受験を決意した人はもちろん、迷っている人も真っ先に取りべき行動は、「就職情報資料室」を訪ねることである！ 就職情報資料室を知っているだろうか。同室では、次のような取り組みを行っている。しかも、もちろん無償で。この部屋のことを一早く知り、活用し尽くすのが一番だ。全国の学生が教採の激動に不安を覚える今、広大生にとってはむしろチャンスといえるかもしれない。さあ、今こそ就職情報資料室へ！

【就職情報資料室が提供する主な就職支援】

- ・豊富な就職関係資料（全国の過去の教員採用試験問題集）の閲覧
- ・これまでの先輩の採用試験受験体験記の閲覧
- ・二人の常駐教員による進路相談
- ・出願書類の添削
- ・小論文の添削
- ・対面での面接練習
- ・集団面接の指導
- ・模擬授業の練習・個別指導
- ・各教育委員会を招いての採用試験説明会の開催
- ・同じ県の試験を受験する学生同士の勉強会（県人会）の組織・指導
- ・…etc